

歴史下華鏡

119回

相合傘

高知県立歴史民俗資料館
学芸員 中村 淳子



●「相合傘」 岡本楠次郎・作

よさこいの夏がやってきた。新型コロナウイルス感染症の流行により、よさこい祭りは三年連続で今年も中止だが、形を変えて特別事業の「2022よさこい鳴子踊り特別演舞」が開催される。

よさこいは、鳴子を手に持って前進しながら踊る等のルールはあるものの、正調のほか、ロック調やサンバ調、ラップ調ありで、振り付けや演奏のアレンジは自由だ。現代的なバンドが地方車の上で、「土佐の高知のはりまや橋で坊さんかんざし買おうを見た」と、よさこい節の一節になった幕末の悲恋を歌う。

この僧・純信と鉢掛屋の娘・お馬の物語は、よさこい節から派生して相合傘の人形になった。よさこい人形やはりまや人形とも呼ばれる人形で、明治元（一八六八）年に起こった戊辰戦争に従軍した岡本楠次郎が、東京で目にした相合傘の人形から着想したという。

それを「坊さんかんざし」の張り子人形に改変し、坊さんが人目をはばかって頬かむりでキョロキョロする様子を、首振りで表現したところに遊び心が光っている。

首振りには、重り入りの首が揺れる仕掛けで、張りの虎や赤べこに使われてきた伝統的な技法である。

また、楠次郎の本職は花台のデコ（人形）師で、高知座の芝居の大道具師も務めていたが、西畑人形も手掛け、見えを切った時に眉が動く侍の頭を作るなど人形を動かす仕掛けに長けていた。

相合傘は、動きの面白さやローカル味で、市民や県民、そして全国の郷土玩具好きに愛され、高知を代表する郷土玩具の一つとなった。西沢笛歌著「うなるの友」（七巻）には、「男の首の左右に動くの妙此の人形の生命なり」「珍品の一つなり」と紹介されている。

楠次郎亡き後も、相合傘の作り手が幾人も登場し、張り子だけでなく土鈴や紙絵馬などにもアレンジされた。

伝統と革新の出会いが、人々を魅了する創作の連鎖を生むのだと、相合傘は教えてくれる。

市長コラム

内和の外順

高知市長 岡崎誠也

園芸革命

高知県では、長い期間を掛けて、全国に誇るハウスメンバを一産業として築いてきました。昭和30年代以降、「いごっそう」と言われる土佐の先人達は、旺盛な探究心のもとに、全国各地の「名人」と呼ばれる篤農家を頻りに訪れ、迷惑がられながらも通い続けました。そして、最後には篤農家に熱心さが気に入られ、全国各地の名人の弟子となり、多くの成果を高知県に持ち帰りました。

そうした先人達の涙ぐましい熱意の成果が、土佐を代表する「ナス・キュウリ・ピーマン・シヨウガ・ミョウガ・オクラ・トマト」をはじめとする特産品であり、今では高知県の園芸作物の産出額は1000億円近くにまで成長しており、先人に敬意を表します。

これら篤農家の技術は、門外不出の栽培技術でしたが、生産者や農業団体の皆様の努力により、県内での産地間の競争を避け、「系統出荷」などの出荷体制の下、栽培技術を磨き、育て

上げ、高度な技術と県内産地を今日まで守っています。

一方で、専業農家と呼ばれる農家戸数が急激に減ってきていることに加えて、独自の高い技術を持たれている人々も高齢化しており、今後は、的確なデータ分析に基づく「見える化」が成長産業には不可欠です。

この課題に積極的に取り組んでいるのが高知大学副学長の受田浩之教授のグループであり、文部科学省の多額の学術研究費を確保して、データを集め、「光合成」の過程の仕組みなどを詳しくデータ化しています。

重要なデータを分析し、生産に活かしていくためには、さらなる人材が求められます。園芸王国の未来がかかる取り組みを私たちも応援してまいります。



広告

不動産の売却 買取 査定

おまかせください!

おかげさまで
昨年度の不動産取引ご成約者数
285名様!!

PLUS HOME

売却・買取対応エリア
高知市・土佐市・いの町
南国市・香南市・香美市

【秘密厳守・査定無料】
※来店予約の上、ご相談下さい。

住み替え

相続

空家

離婚

オーバーローン etc...

住み替え・空家・相続・離婚等による売却・買取や税金・特別控除など不動産取引のプロが全力でサポートいたします。

〒780-8035 高知市河ノ瀬町 34 番地 1
☎0120-331-242 ☎(088) 831-7774

PLUS HOME 買取館 検索

https://www.plussatei.jp